



社員教育へのご活用は  
こちらから



## 第4週

### 日々、感謝と ねぎらいを

「働くってのはね、はたをらくにさせてやることさ」（山本有三著『路傍の石』）。この言葉に見るように、働くとは周囲の人を支援、社会の役に立つことです。

私たちは働くことで、互いに支え合っているのです。さらに、働くことには社会の恩に報いる意味もあるでしょう。自分の働きが他人や社会の役に立っていると感じたとき、私たちはより深い充実感を得ます。

それを実感するのは、感謝の言葉をかけられたときではないでしょうか。私たちも周りの人々に対して「いつもありがとう」「ご苦労さま」と、感謝やねぎらいの気持ちを伝えていきたいものです。そうすることで、皆が生き生きと働ける社会が築かれていくことでしょう。



MEMO

メモ

## 第3週

### 仕事と主体的に 向き合う

中国の禅僧・臨済は「随处に主となれば立処みな真なり」という言葉を残しました。どんなところでもやる気になって主体的に取り組めば、自分自身の立つところに真理がほほ笑むという教えです。

仕事に取り組むとき、自分自身が主体的にならなければ、生きがいややりがい生まれることはないでしょう。雑用と思って仕事をすれば、その仕事は雑用になります。心を込めて取り組めば、それは雑用ではなくなります。

誰もが夢に描いた通りの仕事に就けるわけではありませんし、時には気の進まない仕事を与えられることもあるでしょう。それでも、仕事との向き合い方を見直すと、そこに他人や社会の役に立つ道が見いだせるのではないのでしょうか。



MEMO

メモ

## 第2週

### 仕事によって 得られる喜び

仕事によって得られる喜びには、次の三つの要素があると考えられます。

- ①能力を発揮して自己の成長を実感する
- ②他人や社会の役に立つ
- ③生活のための報酬を得る

そこでは「報酬を得る」という物質的な満足だけでなく、一生懸命仕事に取り組んだという達成感や、その結果を他人から認められたことなどによる精神的な満足も、大きな部分を占めています。そのため、同じ仕事をしたとしても、味わう喜びの大きさは人によって異なるのです。

人は人生の中で、働くことに多くの時間を費やしています。その時間により多くの喜びを見いだすことで、喜びの多い人生を築いていきたいものです。



MEMO

メモ

## 第1週

### 「おかげさま」の 発想

何か苦しいことがあったとき、心の中で「あの人のせいで、自分が苦勞しなければならない」などとひそかにつぶやき、その原因を自分以外のものに求めてしまうことはないでしょうか。こうした思いを放置しておくと、私たちの心は「〇〇のせい」をいくらでも見つけ出します。見つければ見つけるほど心は暗くなり、重くなります。

ここで「〇〇のせい」を「〇〇のおかげ」に変えてみてはいかがでしょうか。すると「あの人のおかげで、自分が鍛えられる」というように、後に続く言葉が変わります。

苦勞や苦難をも「おかげさま」の発想で受け止めることができれば、人生は良い方向へと導かれていくことでしょう。



MEMO

メモ